

主張

金属労協副議長／全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会会長

神保 政史

春季交渉の役割

2024年春季交渉は現時点で交渉を継続している組織もありますが、多くの労使で大幅な賃金改善を実現することができませんでした。また、労働組合の社会的役割と責任をさらに感じることができた交渉となりました。

改めて、春季交渉の役割について私なりに考えてみたいと思います。

2024年春季交渉を振り返って

私たち電機連合は金属労協の方針に基づき、2014年より、生活の安定を図り、個人消費を喚起し経済を好循環させることを要求根拠に掲げて賃金水準の改善に取り組み、2023年交渉では30年ぶりに高水準の賃金水準の改善を実現することができました。しかしながら、近年の物価上昇により賃上げが

追いつかず、実質賃金は低下し続けています。また、日本の賃金は水準、伸び率ともにOECDの中で低い水準にとどまっています。

私たちの生活を向上させ、日本経済を持続的に成長させるためには、賃上げを中心とした「人への投資」を継続的に実行しなければならぬとの観点から、今次交渉では2023年を大幅に上回る賃金水準の引き上げに取り組みました。

連合・JCM構成組織が思いを一つに要求を掲げ、例年以上に綿密な連携を図り交渉を進めた結果、多くの組織で賃上げを実現し、賃金体系維持分と改善分を合わせて5%を超える改善が実現できました。

歴史的な賃上げの要因はいくつか考えられます。

① エネルギー価格や原材料の高騰

により国民生活に影響が出ていること

② 日本の賃金水準を高めていく必要があること

③ 人材獲得のために処遇改善が必要であること

④ 日本経済の好循環に向けて賃上げの重要性と必要性を政労使で共有できたこと

⑤ JCM5産別の強固な結束

などがあげられますが、もっとも重要なことは2014年から賃上げを継続して実現してきたことです。この間、物価上昇率や経済成長率、産業を取り巻く環境や企業業績が悪化したり、コロナ禍で経済社会が大打撃を受けたりするなど、厳しい環境もありました。しかしながら、生活の維持向上と経済好循環の実現のためには、賃上げの動きを止めてはならないとの思いから、

一度も途切れることなく要求を掲げ、労使協議を重ねてきました。こうして賃上げを継続して実現してきたことが、昨年、今年につながっていることを私たちは認識しておかなくはなりません。

ゆえに、今次交渉の成果を一過性で終わらせるのではなく、継続して取り組み、さらなる前進に向けて環境整備を進めていかなければなりません。

今次交渉では、労務費の価格転嫁がテーマとなりました。

昨年11月末に公正取引委員会から、「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」が公表されました。それぞれの産別が、この指針に基づいて適正な価格交渉が行われるよう、加盟組合への周知や、産業・企業への要請、さらには政治への働きかけなどに取り組みしました。

しかしながら、労務費を含む価格転嫁は、いまだに多くの企業が転嫁できずに苦しんでいるのが実態です。

電機連合が加盟組合に対して実施した調査では、ほぼすべての企業で製造コストが上昇しているにもかかわらず、多くの企業で価格転嫁は不十分との回答がありました。また、原材料費、エネルギー費は価格転嫁ができていないと回答した企業が一定数あるのに対して、労務費については価格転嫁が難しく、その理由は発注元・お客様の理解が得られにくい、他社との競争を重視するため、が多く自社が率先して価格転嫁を要請することが競争上不利になるのではないかと懸念が根強いことを、改めて認識する結果となりました。この労務費の価格転嫁を実現してこそ、企業収益の改善、持続的な賃金水準の改善につながります。

引き続き電機連合では、加盟組合への周知と課題解決に向けた労使協議の充実に加え、産別労使交渉や業界団体への働きかけ、さらには政府への政策制度要求などを通じ「適正な価格転嫁の実現」に向けた環境

整備を図っていきます。

労働協約の取り組み

春季交渉は賃上げに注目が集まりますが、労働協約の改定も重要な取り組みです。電機連合では今次交渉で、働き方改革、リスキリングを含むキャリア形成支援、ジェンダー平等の実現、S O G Iに関する理解促進、障がい児等をもつ家族などの個別事情をふまえた取り組み、さらにはヘルスリテラシー向上の取り組みなど、多岐にわたる項目を掲げて交渉に臨み、労使協議を経て一定の前進を図ることができました。

柔軟な働き方や組合員の意識の変化などによって、職場の課題も多様化しています。そして、職場での課題は社会の課題でもあります。

それゆえに、職場を熟知している労働組合はいち早く課題を認識し、たうえて、労使で共有し解決に向けた取り組みが求められます。

これらの取り組みは、一人ひとりが能力を最大限発揮し、働き続けられる環境の実現につながります。また、モチベーションを高めることにより生産性が向上し、処遇の改善

につながっていきます。課題の顕在化や制度の拡充により、社会へ波及させていくことも労働組合の重要な役割であり、春季交渉はその舞台の一つと考えています。

また、賃上げも、一人ひとりが能力を最大限発揮できる働く環境の整備がともなってこそ実現するものです。このことも春季交渉の重要な役割です。

新たな時代へ

金属労協は1964年5月にIMFJIC（国際金属労連日本協議会）として結成され、今年で60周年を迎えました。電機連合は1953年5月29日に山梨県甲府市で結成大会を開催、6月1日に結成し、70周年を迎えました。結成以来、金属労協と連携を密にし、多くの困難を乗り越えて今日に至っています。

今、時代は大きな変革期を迎えています。これまでの概念や価値観が一変し、経済・社会、そして私たちの暮らし方、働き方が大きく変わろうとしています。この変革期に、私たち労働組合にも進化が求められています。

節目の年を迎え、歴史を振り返り、これまで諸先輩方が築き上げてこられた礎を大切にしながら、変化を恐れずに新たな時代に相応しい労働組合を築き上げていきます。

（2024年6月記）

金属労協副議長／電機連合会長 神保 政史 じんぼ まさし

1967年2月13日生まれ
1989年4月 三菱電機株式会社入社
2002年8月 三菱電機関連労働組合連合会 事務局長
2003年8月 三菱電機労働組合 中央書記長
2008年8月 三菱電機労働組合 中央副執行委員長
2010年8月 三菱電機労働組合 中央執行委員長
三菱電機関連労働組合連合会 会長
2014年7月 電機連合 副中央執行委員長
2016年7月 電機連合 書記長
2020年7月 電機連合 中央執行委員長（現職）
※2024年7月「会長」に役職名称変更
2020年9月 金属労協 副議長（現職）

